

## ニュージーランド ウェリントン

ニュージーランドの学校教育制度を規定している法律は 1989 年の教育法であり、同法は障害児教育の分野にも大きな変化をもたらした。子どもは特別支援学校での教育を受けるだけでなく、地域の通常学校・学級でも教育を受けられ、保護者の選択対象とする制度を作り上げた。教育省の説明ではインクルーシブ教育の根拠はこの法律にあるとされている。

ニュージーランド国内には約 44 校の特別支援学校が存在する。インクルーシブ教育制度を達成するための政策は公に出されてはいるが、現在もその実現に向けて様々な取り組みが行われている。

### ・ Kimi Ora School (ウェリントン市内 5-21 歳までの特別支援学校)

PC とホワイトボードが連動しており  
ホワイトボードに映った画面をタッチ  
すると反応し、音が鳴ったりする  
操作ができる。



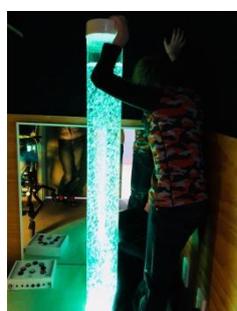
サークルタイムで自分の名前を選ぶ



神経衰弱ゲーム



センサリールーム



ミュージックセラピー



ハイドロセラピー（水治療）

スクールにスパルームがあり、週 1 回近くの温水プールへも。



廊下で PT を受けているところ



OT 中。カラフルな傘からぶら下がったものに手を  
伸ばす。オクトパスと呼ばれる頭で触れて操作する  
スイッチを使っておもちゃを動かす。



## ニュージーランド オタゴ

オタゴ大学の体育学部で主に DCD（発達性協調運動障害）に関する研究をされている宮原教授を訪問。運動発達クリニックはオタゴ大学の体育学部にあり、創設 50 年以上の歴史を持つ。体育学専攻の学生が運動に問題のある子どもに運動指導をするという取り組みをしている。



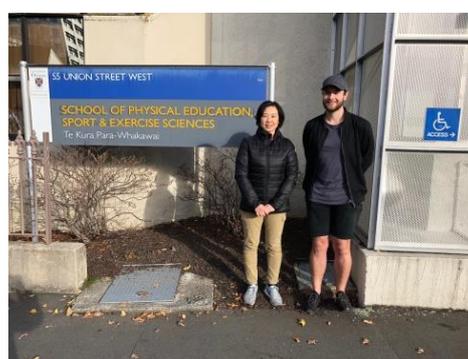
オタゴ大学



とても歴史のある建物の中で子どもへの指導が行われる。  
棚には過去数十年分の子どものカルテなどがぎっしり。



運動指導の内容は、手先の動きを中心に行うもの（パズル、靴ひもを結ぶ練習などの教具）、上記写真のようなボール運動、クリニックの外では自転車に乗る練習などを行う。自転車は子どもの大きさに合わせるため、多くのサイズを用意している。その他に体育館やプールの施設もあり、様々な指導が行われている。



体育学部前で宮原教授と院生の Mark さんと